

第2回 県道長井古座線 八郎山トンネル技術検討委員会

議事要旨

1. 日時：令和5年11月10日（金）13：30～15：30

2. 場所：日赤会館 3F 大会議室

3. 委員：（敬称略、出席者のみ）

- ・大西 有三（京都大学）：委員長
- ・砂金 伸治（東京都立大学）：委員
- ・日下 敦（国立研究開発法人 土木研究所）：委員（WEB）
- ・中本 純次（和歌山工業高等専門学校）：委員

4. 議事要旨

- ①事務局よりトンネルに関する追加調査を含めた調査結果の報告および今後の対応方針（案）について説明があった。
- ②施工時の測量における値の管理等が不足していたことにより、掘削の進行方向に誤差が生じ、当初の線形にズレが生じている可能性があることを確認した。
加えて、一次吹付けコンクリートの厚さの管理不足や鋼アーチ支保工の設置位置の確認不足により、支保工が所定の位置に設置されていない可能性があることを確認した。
- ③支保工が適切に設置されていないままで、当初の線形で内空断面を確保するように覆工の型枠を設置したことで、覆工コンクリート厚が薄くなった部分が生じた可能性があることを確認した。
- ④今後の調査方針として、大部分の覆工コンクリートを撤去し、鋼アーチ支保工等が正しく設置されているか、直接確認することとなった。
- ⑤今後の対応方針として、所定の内空断面と覆工コンクリート厚を確保できるよう、支保工を正しい位置に再設置したうえで、再度覆工コンクリートを打設することが望ましいことを確認した。
- ⑥覆工コンクリート及び支保工の撤去等は、通常のトンネル工事の施工手順と異なる部分もあり、内空変位・天端沈下の計測を行うなど適正な施工管理を実行し、現場の安全確保を徹底して進めることを確認した。